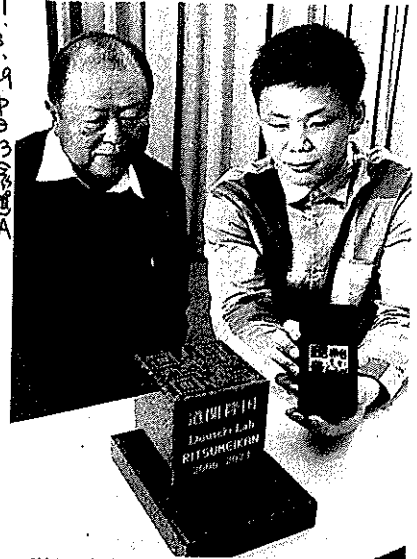


21.3.29 中日新聞 津市版A



墓石上部に彫られたポーラスコードから読み取った映像を流す
道関教授（左）ら＝大津市内で

2次元コードを墓石に

立命館大など開発 故人の動画にアクセス

立命館大理工学部（草津市）の道関隆国教授（66）の研究グループは、室内に置ける小型墓石「たくぼ」を販売する浦部石材工業

（豊郷町）と共に、墓石の表面に彫った2次元コードをスマートフォンで読み取り、故人の写真や動画にアクセスする技術を開発し

た。

QRコード付きの墓は既にあるが、道関教授が考案した2次元コード「ポーラスコード」を使うのが特徴。QRコードの四角ではなく、小さな丸い穴の列で情報を読み取るため、墓石や金属板などの固い物質にも直接彫ることができ、屋外でも劣化しにくい。ポーラスには「小穴がある」などの意味がある。

墓石の模様を読み取ってしまふ問題があったが、穴に着色して色の対比を強めて解決した。サーバーを使えば、写真や動画の容量が増えるという。

「思い出たくば」と名付け、新年度中の商品化を目指す。二十四日に大津市内で会見した道関教授は「核家族化や少子化で家族のあり方が多様化し、コロナ禍で死との向き合い方を見つめ直す時。墓石に直接彫ることで、半永久的に故人に会える」と話した。

（堀尾法道）